

中ノ郷地区公民館だより



No.358 令和7年2月1日
 中ノ郷地区公民館
 鳥取市覚寺118 電話 21-5393 FAX 21-5409
<http://chiiki.city.tottori.tottori.jp/nakago-1/>



中ノ郷地区公民館HPのQRコード

※「公民館だより」の用紙サイズ変更について今年より大きくし、見やすくしてみました。

★★ 各町内会の公民館配布物受取担当者さんへ ★★
 次回「公民館だより2月号」発行日は2月26日予定です。

～2月 行事予定表～

日	曜日	行事・会合	教室・サークル
1	土		囲碁同好会
2	日		
3	月	特ノかき餅づくり	書道教室
4	火		生花/絵手紙/健康体操/切り絵 なかよしサロン
5	水		英会話/コーラス/歌おう会
6	木		ヨーガ/ロコモ体操
7	金		健康マージャン教室
8	土	覚寺口子ども会 地子連	囲碁同好会/チーム中ノ郷
9	日	自治会総会・理事会	
10	月	地ノ魚のさばき方	健康体操
11	火	建国記念の日	
12	水		英会話
13	木		ヨーガ/ロコモ体操
14	金		健康マージャン教室
15	土		囲碁同好会/高年クラブ
16	日	円護寺団地町内会定例会	
17	月		書道教室
18	火		生花/GO!郷!キッズ なかよしサロン
19	水		英会話/コーラス/歌おう会
20	木		ヨーガ/ロコモ体操
21	金		健康マージャン教室
22	土	ふる協ノ総務広報部会	囲碁同好会/チーム中ノ郷
23	日	天皇誕生日	
24	月	振替休日	
25	火	特ノ味噌づくり	健康体操
26	水	公民館だより発行日	英会話/ふれあいディサービス
27	木	地区社会福祉協議会	ロコモ体操
28	金		健康マージャン教室

子/子どもと大人のふれあい事業
 特/特色ある公民館活動事業
 ふる協/ふるさとづくり協議会

地/地域の仲間づくり事業
 人/人権啓発事業

公民館の使用予約の案内

地区公民館の使用予約が
インターネットでできます！

令和7年1月28日から地区公民館の使用予約がインターネットでできるようになりました。

Webサイト『とっとり施設予約サービス』で、公民館の空き状況を確認して、1か月以内であればオンラインで予約することができます。（オンライン予約する場合は利用登録が必要になります。）有料の場合は、支払もキャッシュレス決済できます。

なお、中ノ郷地区公民館では、今まで通り来館しての予約、電話での予約もできます。



『とっとり施設予約サービス』は
 こちらから↓↓↓↓↓
<https://p-kashikan.jp/tottori/>

※1か月より先の予約は、今までどおり公民館にお問い合わせください。

<地域の仲間づくり事業>

魚のさばき方教室

～お祝いの鯛をさばいてみましょう～

※漁の都合で魚が変更になる場合もあります。

日時：2月10日（月）10:00～12:00
 場所：中ノ郷地区公民館
 講師：大磯 一清さん（鳥取市食育アドバイザー）
 参加費：500円（当日集金します）
 持ち物：エプロン・三角巾・手拭き用タオル
 定員：先着12人（定員になり次第締め切ります）
 申込み期間：1月27日（月）～2月4日（火）

3月、4月のお祝いシーズンへ向けて鯛のさばき方を教えていただきます。
 ご家庭でのお祝いの参考にもなると思います♪
 男性もお気軽にご参加ください♪
 当日は試食してもらいます。



お問合せ先：中ノ郷地区公民館 TEL 0857 (21) 5393

<特色ある公民館活動（教養大楽）>

地域の食文化を楽しむ



味噌づくり

昨年に引き続き、好評だった「お味噌の
 つくり方教室」を今年も開催します。

保存袋を使って、そのまま保存できる
 手軽な作り方を教えていただけます。

お一人約2kgお持ち帰りです。



日時：2月25日（火）9:30～12:00
 場所：中ノ郷地区公民館
 講師：池本 智美さん
 参加費：材料代として1,000円（当日集金します）
 持ち物：エプロン・三角巾・手拭き用タオル
 定員：先着12人（定員になり次第締め切ります）
 申込み：2月4日（火）受け付け開始
 ※初めて参加の方を優先させていただきます。
 昨年参加の方はキャンセル待ちとさせていただきます。

お問合せ先：中ノ郷地区公民館 TEL 0857 (21) 5393

<人権啓発推進事業>

国際交流事業

主催：中ノ郷地区人権教育推進協議会

台湾を学ぼう

智頭街道の裁判所前でお店を開いておられる、大久保美玲さんを講師にお迎えして、簡単なお菓子づくりと、台湾のお茶を楽しみながらお話しをしていただきます。

皆さん、ぜひご参加ください！



日時：3月3日（月）13:30～15:00
 場所：中ノ郷地区公民館 1階研修室2
 講師：大久保 美玲さん
 参加費：無料
 持ち物：エプロン・三角巾・手拭き用タオル
 定員：先着12人（定員になり次第締め切ります）
 申込み：2月14日（火）受け付け開始



お問合せ先：中ノ郷地区公民館 TEL 0857 (21) 5393

12, 1月開催された地区活動の様子

<子どもと大人のふれあい事業>



日時：12月25日（水）13：30～15：00
 場所：中ノ郷地区公民館 2階会議室1・2
 講師：澤田 勝さん（元宮ノ下地区公民館長）
 参加者：子ども 14人、大人32人
 共催：中ノ郷地区公民館サークル「歌おう会」



今年のクリスマス会は、テナーサックス奏者の澤田さんによる生演奏で、公民館サークル「歌おう会」のみなさんといっしょにクリスマスソングや子どもの曲目を歌って楽しむ企画にしました。

参加した14人の子どもたちと「歌おう会」のメンバー並びに自主参加された大人6人を含め総勢36人が澤田さんのサックスを静かに聴いていました。

そして雰囲気盛り上がりだしてくると、大人の人が演奏に合わせて歌い始めました。子どもたちは、演奏曲が演歌中心でもあったことから、少し退屈していた様子でしたが、突然の大人たちの元気で大きな歌声に目を丸くして驚いた様子であったが、途中からは笑顔で手拍子しながら共に楽しんでいました。

サックス演奏に引き続いて子どもたちの選曲によりカラオケを楽しみました。その時、大人の方々は初めて聴くテンポの早い曲にもかかわらず、子どもたちがマイクを握って歌っている様子を笑顔で手拍子でもって見守るような目線で楽しんでおられました。

このように子どもと大人では音楽に対する嗜好が異なるもの、お互いが各々の立場を理解し、子どもと大人のふれあいが少しでもできたことは今回のクリスマス会が成功であったとも思われます。なお、このような子どもと大人がふれあう企画を継続する場合、「子どもと大人の共通の何か？」を見出すと、より一層有意義な世代交流事業が実現できましょ。

ご参加者の皆さんにはお世話になり、ありがとうございました。

お疲れさまでした。



新刊図書のご案内

■ 西洋の敗北 著者：エマニュエル・トッド
 翻訳：大野 舞 出版社：文藝春秋



ウクライナ戦争やシリア情勢を見る眼が豊かになる書物である。また、世界では例外的な投票様式、つまり有権者が自分で候補者名を書く日本の民主主義がいかに「西洋」で優等生なのかを知る上で貴重な本といえる。

■ 季節のない街 著者：山本 周五郎
 出版社：新潮社



2024年4月5日よりテレビ東京でドラマ化された。誰もがその日の暮らしに追われる貧しい街で、弱さや狡さを隠せずに生きる個性豊かな住人たちの悲喜を紡いだ不朽の名作。

■ 地方消滅 2 著者・編集：人口戦略会議
 出版社：中央公論新社



『地方消滅』は人口減少が引き起こす現実を突きつけるものであった。本書は、それ以降の変化と最新のデータ、各界の有識者の知見を踏まえ、超少子化や自治体が抱える困難などを論じる。そして、日本が取るべき持続可能な社会のためのビジョンを打ち出す。

■ 女性のための老齢年金と遺族年金 著者：拝野 洋子 出版社：日東書院本社



「老後資金に2000万円は必要」といわれるなど、老後を公的年金だけに頼るのは不安な時代です。長生きして元気に暮らすために、とくに、夫より長生きすることの多い妻は、老齢年金だけでなく、遺族年金についても知っておくことが大切です。本書で年金について一緒に学んでみましょう。

■ 人生を変えたコント 著者：せいや
 出版社：ワニブックス



せいや（霜降り明星）の半自伝小説。ある朝、いじめは急にはじまった。それでもイシカワは高校を休まなかった。奪われかけた青春をコントで取り返す文劇祭、まもなく開演!!「どん底から這い上がった人のほうが絶対に強い!」（せいや）

■ あの世でも仲良う暮らそうや 著者：信友 直子 出版社：文藝春秋



認知症になった母と、母を献身的に介護する高齢の父の暮らしをカメラに収め、日本中に感動を巻き起こしたドキュメンタリー映画『ぼけますから、よろしくお願ひします。』の監督が、娘の視点から父親をユーモラスに描いたエッセイです。

■ はなしをきいて 著者：マギー・ホーン
 翻訳：三辺 律子 出版社：理論社



カナダ出身の作家がおくる青春小説です。ハラスメントや、LGBTQ、SNSトラブル・・・中学生をとりまく問題は、今や世界共通。明るくユーモラスな語り口のなかに、今日的なテーマを鋭く織り込んでいます。

■ あいまいさに耐える 著者：佐藤 卓己 出版社：岩波書店



SNS等に溢れるあいまい情報に飛びつかず、その不確実性に耐える力が輿論主義（デモクラシー）の土台となる。世論駆動のファスト政治、震災後のメディア流言といった2010年代以降のメディア社会を回顧し、あいまいさに耐えられない私たちにネガティブ・リテラシー（消極的な読み書き能力）を伝授する。